

Q1. 校納金、もっと下げないのか？

A1. 校納金は実績、内容、相場等で決まります。当校の場合、いずれを取ってもどこにも負けていません。“無理の無い当校方針で普通にやっていただければ、不合格は有り得ない！”この現実を考慮すれば極端にリーズナブルです。

確かに半額にすれば生徒数は倍増します。しかし例えばある市職の採用人数より多くの当校性が受験しても、全員合格は言う迄もなく無理です。避けたいことです。

Q2. 普通にやれば合格するとあるが、その普通とはどの程度なのか？

A2. 当校では自己流解法はやめて欲しいと言っています。遅々として上達はしないし、それに反し当校方策は誰にとっても考えうる最良の方針だからです。無比の“ベスト解法”、“簡便法”を擁しているからです。

したがって当校では授業は半分でも出席して、その解法、要点は独自の忘備録に記入。その後、細切れ時間(5分でも可)に都度反復し、知恵・知識・反省点を血肉とする。(最少で最大効果) これでも十分合格が確保されます。必要な時間も他と比べて最少です。

Q3. 2次対策も得意とあるが、どうしてそう言えるのか？

A3. 個別面接の要は、どういう態度で、どう答えるか。これを良く指導するためには豊富な経験だけでなく、人間に対する深い洞察力、構想の創造力が必要です。

私は若いころから人生に対する問い、不条理を考え続けて来ました。苦悩紛れに答を求め、東西の文学、哲学、心理学書等を数多く乱読してきました。当時これらが何の役に立つか、…。しかし今では良くわかります。悩んで、やって今日があると。

…結果、1次対策以上と言える程に2次が得意科目になりました。人間を知る力になりました。結果、1次の高得点の好影響のみならず、当校生は2次にまず落ちません。

これも論より証拠。考えうる最も困難な質問に対してどう答えるか。これ以上は無いと思える程の実例をお示しします。何でも確認です。

Q4. 単なる公務員予備校、社会的にはあってもなくてもいいと言えるが何か意義はあるのか？

A4. 三つあります。

一つ。公試験の特徴の一つは問題間で難易度数十倍あるも全問一点、短時の数理解パズル的問題です。生真面目な方、誠実な方にとっては、大きく不利になるような試験です。しかしそんな心温かい人にこそ公務員になってほしいと思い、難なく解問出来る方策を追求し続けました。さらには文系の多くの方が苦手とされる“ロジカル・シンキング”力を今後のためにもつけました。正しいものは正しいと。

二つ。多忙な現役生を過剰な負担なく現役合格させることです。浪人して就業を延期することは合格以外には他に余りメリットは社会的には少ないと思うからです。

最後。ブラック企業に勤めておられる方に“かけ込み寺”を提供することです。普通以上にやっていたら合格が保障出来る程の学校を用意して、その決断を後押し実際に明るい未来を提供することです。本人にとってどれだけ救われる事か。

以上が 30 年前の当校の校是ですが、今も生きています。

これが当校の社会的意義です。



最後迄読んでいただきありがとうございました。

“偽の時代”の現代を共に生きて来られて、

その偽を選別する必要性は皆様、痛感しておられると。

そんな賢明な方々ですので  をして見て下さいと。

迷うなら、否迷うからこそ確認です。容易です。

 と  を！ 数理の査読で、

根拠の無い、薄っぺらい権威主義や個人的な前例を排して

ここ迄言っても動かない方は、当校とは無縁の人々。情熱を失った人。
否、ここ迄言っています。確認して、“ガツン”と鼻を折ってやりましょう。

皆様の叡智を信じています。